

- 1 県立高校教育振興に関する市町村との意見交換会(主なご意見) . . . 1
- 2 県立高校教育振興フォーラム(主なご意見) . . . 3

# 1 県立高校教育振興に関する市町村との意見交換会(主なご意見)

令和6年1月18日(木)開催 【出席者】 <市町村側>市町村長、市町村教育委員会教育長  
<県側>知事、副知事、県立高校教育振興検討会議委員、教育長ほか

検討項目	内容	ご意見
再編	ビジョン	教育がどうあるべきかがあって、そのあとに再編をどうするかということだと思う。(同趣旨他4件) 再編統合するメリットが見えてこない。(同趣旨他2件)
		地域の高校にとって地域との関わりも大事な要素。知事には、地元の学校を愛する、地域の人を大事にする、そういったメッセージを発信してもらいたい。
	進め方	前回の再編を検証してほしい。
		様々な地域の意見を取り上げていくべき。
		コンパクトな富山県であっても過疎地域はある。過疎地域にある学校がなくなることは大きなしわ寄せにつながる。13の市町にある学校は残して、地域に根差した、地域の方に応援してもらうような学校づくりをすることが大切。(同趣旨他2件)
		地域の学校がなくなることは寂しいが、どこかとどこかを合わせて新しく1校つくるというのであれば、新しい一歩を踏み出せるという考え方で再編を進めることができるのではないか。
(基本的な方針を)早々にまとめる必要があるのかと思っている。もう少し議論する時間が欲しい。検討会議の結論はもう少し先延ばしし、4月以降に再度議論してほしい。(同趣旨他3件)		
全日制の話をしているが、定時制高校もある。どの市町村でも不登校の子どもたちが増えている中、高校全体のあり方を、今一度、大きく議論した方がよい。		
15市町村すべてが会しての意見交換会の場の設定を高く評価する。この場に出てくる様々な意見をしっかりと検討し、反映してもらいたい。		
基準	規模	1学年4学級未満、4学級以下と併記されているが、どのようにバランスをとるのか。もう少し明快にした方がよい。検討をお願いしたい。
		1学年4学級未満または4学級以下という基準が示されたが、現在、小規模となっている学校規模は、これまで県教委が減らしやすい学校の学級を減らしてきた結果。そこを高校再編の対象にしようと思ってしてきたのではないかという不信感を覚える。
		生徒が一定の通学時間内にある高校から多様な学科構成や規模の学校を選択できるようバランスよく配置するという方針を踏まえていただきたい。各学区に多様な選択ができるようにすることは大切。(同趣旨他3件)

検討項目	内容	ご意見
基準	規模	富山県はコンパクトな県なので、新潟県や長野県とは全く違ってくる。富山市から周辺の市町村に通学する生徒がいてもよい。地域のバランスを考えてほしい。
		ブロック（学区）の中で定員が議論されてきたが現実に合っていない。
学科・コース	配置	工業高校等の生徒は、地元の企業に就職して活躍している。各エリアでものづくり人材を育てていく機能が必要。その前提として、県全体でどのようにものづくり人材を育てていくのかというビジョンが重要だと思う。
		富山県として特色ある地場産業、薬業科を大切に考えていただきたい。
		普通科以外の学科に進学した生徒が、その学科を選択した理由と卒業後の進路を資料として示してほしい。ニーズのある学科は残していくべきで、ニーズがないのであれば学科構成の検討を深めるべき。
		砺波地区には土木系の学科がない。このあたりを整理したうえで再編の話に行くことが必要。
	魅力	特色ある学校づくりというが、その特色が出ていないように感じる。（同趣旨他1件）
		特色ある学科・コースは地域との連携も考慮し、学びの環境が確保されることを期待している。
多様な選択ということについて、学科構成や学校の教育方針などにおいて多様化や尖ったものが必要。海外の大学との連携などを行いグローバル人材の育成、アントレプレナーシップの育成といった尖ったコース・学科ができればよい。		
様々なタイプ	全国募集	富山県の魅力ある学校に全国から来てもらう全国募集や、オンライン授業という方法もある。
		南砺平高校における全国募集を進めてほしい。
その他	学級編制	中学3年生の人数に応じた定員設定をしてもらいたい。昨年度の学級編制の議論を踏まえ、小規模校を残すために、他は減らせないからという理由で、これまでの再編統合によって複数の学科が設置された高校の学級を減らすということがないようお願いしたい。
		中学校3年生の生徒数だけで学級編制を議論するのはいかがなものか。教育の望ましい姿とともに地域の将来像に真摯に向き合っていただきたい。
	少人数学級	全国的な傾向でもあるように、1学級40人の基準を下げた少人数学級にするという働きかけはできないものか。学級数の削減は次のステップとなるべき。（同趣旨他1件）
		少しでも教職員の負担軽減を図るには、40人学級にこだわる必要はない。

## 2 県立高校教育振興フォーラム(主なご意見)

【富山会場】令和6年1月22日(月)19時～ 参加者48名(発言者8名、書面回答者15名)

【高岡会場】令和6年1月30日(火)19時～ 参加者44名(発言者9名、書面回答者16名)

検討項目	ご意見
ビジョン	再編にあたり、ある程度の数の基準は必要だと思うが、それよりも再編のビジョンを明確に打ち出すことが大事。ビジョン策定にあたっては、県立高校だからこそのことを中心に、20年後、30年後も継続的に運営できる仕組みを考えなければならない。(同趣旨他10件)
	どのような学校を作っていくのか、どのような子どもを育てていくのか、どのような高校教育を提供していくのかといったことを一体的に検討してほしい。(同趣旨他1件)
	高い水準の教育を希望する生徒も多いと思う。教育の質を確実に保てるような高校を作っていただきたい。
	まちづくりの観点が必要。教育が産業を支え、学校があることで自治体の活力につながり、地域産業に人材を輩出している。富山の未来を良くするための教育機関であり、地域に必要な人材を輩出するための機関である。
	全体では子どもファーストで考えてもらいたい。子どもの教育にお金をかけてほしい。
再編          進め方	令和2年の再編によって、子どもの選択肢の増加や県立学校の魅力の高まりなどの結果はどうだったのか。その考察を踏まえて議論をしてほしい。他県に生徒が流れないように、内容を重視した再編にしてほしい。
	いろいろな案が出ていることを初めて知った。もう少し県民にオープンにした方が良いのではないかな。
	全ての高校は「地元にとって大切」という点では同じ。その観点で考えると再編は進められないので、それ以外の観点から客観的に考えていくことが必要。以前、大きな声をあげたらより意見を尊重されるかのような報道のされ方があり、報道のあり方はこれでいいのかも思った。
	首長との意見交換にあった13市町すべてに高校を残してほしいという意見に対し、県教委は首長に予算の負担の覚悟を確認し、覚悟のある市町全てに高校を残してほしい。県教委は、富山、高岡地区に大規模校(7～8学級)と小規模校(3学級以下)の組み合わせを考えればよい。覚悟ある首長は納得し、県教委も負担を各市町に任せ、上記の組み合わせのみに専念して議論できるのではないかな。全国的な少子化の中で、少人数学級を求め声は他県からでも上がってくるのが予想される。法改正がなされるまで、首長の覚悟をしっかりと聞き出していきたい。
	大規模、中規模、小規模校の役割と様々なタイプの学校を子ども達に提供していくことは大切にしたいが、充実した教育を展開するためには、多くの生徒と教員が必要であり、再編統合はやむをえない判断だと思う。(同趣旨他1件)
	生徒数が足りないことや財政的に学校維持が難しいということを示して話をしてもらおう方が納得がいく。感情面ではなく、通学距離や偏差値、部活動などの観点から考えていかなければ駄目なのではないかな。
	単なる数合わせで減らしていくという、少子化にただ合わせるような形でどんどん進めて行くのはどうかと思う。
	対象になる学校の生徒の声を聴いて欲しい。また、教職員、保護者、地域の方々、県民、中学生の声を聴いて欲しい。(同趣旨他5件)
	様々な学習歴や生育歴をもった子どもが増えているので、1学級40人の生徒数は極めて多い。少人数学級となっている高校でも、指導の面で苦しいという教員の声もある。教職員の声をもっと聞いてもらいたい。
	最後は、将来を見据え、子どもの地区別人数や教職員の数、財政上の様々な観点から決めていくことになるのではないかなと思う。
再編統合の際は、通学手段の確保も含め、新しい学校に子どもたちが通いたくなるような工夫と、手厚い人的・物的支援をお願いしたい。	

検討項目	ご意見
規模	<p>少人数の学校は大規模な学校に比べ一人ひとりがいろんなことに挑戦できる。中学校は生徒数の多い学校に通っていたが、人が多すぎるため、いろんなことにチャレンジできなかつた。生徒数が少ないので、少人数での授業が受けられる。また、人数が少ないので文理融合のクラスになり、いろいろな考えの人がいて刺激される。</p>
	<p>小規模校の「デメリット」をどのように補うかを議論しないと小規模校の再編はまぬがれない。</p>
	<p>小規模校は、生徒一人ひとりに目が行き届くメリットはあるが、教員数も少なくなるため、教科指導等への負担が大きくなる。教員の働き方改革の観点からも、小規模校の設置には慎重であってほしい。</p>
	<p>「地元だから」や「母校がなくなるのは嫌だから」といったことではなく、将来の子どもたちのためにどうするのがよいかといった観点で考えると、一定規模の学校で子どもを育てたいと思う。(同趣旨他2件)</p>
	<p>クラス数を維持するだけの教員数は確保できるのか。(教員採用試験の倍率減が不安)</p>
	<p>前回の再編統合により「平均学級数が5.0に回復」とあるが、5.0を基準とすることやそれにこだわる必要性はあるのか。大規模、中規模、小規模をしっかりと定義付けしなければ、人によって受け止め方が違い、規模感があまり伝わらないのではないか。</p>
進め方	<p>少子化の中、高校再編はある意味、致し方ない。「県立高校のあり方に関するアンケート調査」において「高校選択の際に重視すること」の2番目に「通学条件」が挙げられていることや、「学級数が多い学校から少ない学校までバランスよくあることが望ましい」と生徒や保護者が希望していることが大事なところ。</p>
	<p>規模の基準を決めるための議論ではなく、学科やコースのあり方を検討し、さらに地域の声を拾うのが先ではないか。結果、統合すべき学校が見えてくると考える。</p>
基準	<p>少子化の中、高校再編は喫緊の課題であり、基準を決めなくてはならないのはわかるが、あくまで議論のベースとなる基準をつくるだけで、一つ一つのケースで考えていくべき。(同趣旨他1件)</p>
配置	<p>中～大規模校、小規模校それぞれにメリット、デメリットがあるが、中学校卒業予定者数が減少していく以上、今後の高校再編は避けて通ることはできない。そのための基準は検討会議で出された意見をもとに考えていくのがよい。</p>
	<p>大小組み合わせの案には得心がいった。ただ、イメージがよくわからない。具体的なイメージがほしい。</p>
	<p>「バランスよく」と示されているので、学校の設置場所など様々な観点を考慮して再編の検討をしてほしい。(同趣旨他5件)</p>
	<p>周辺地域の小さい学校を残すために大小組み合わせするという考え方ではなく、富山市内にも小規模校をつくるべき。通学時間は大きな考え方だと思う。</p>
	<p>富山県全体で子どもの数が減っていくとは言うものの、中心部と校外では減り方が異なっている。砺波地区では、子どもの選択肢が非常に少ない状況であるため、富山、高岡地区から削り、小さい学校でも存続させる考え方ができないか。(同趣旨他1件)</p>
	<p>再編基準をつくって学校数を減らすというが、砺波地区は学校数をこれ以上減らしようがない。(同趣旨他2件)</p>
	<p>私立の高校30%というのは高岡市、富山市において高くなると思っていたので、射水市ではもっと低くなると考えている。地元の子が地元の高校に入ることができるよう望んでいる。</p>
	<p>教育レベルが低下していると言われる中、定員数が多い学校がある。探究科学科を普通科のコースとし、1クラス減でもよい。その分、他の中学生が行くであろう学校のクラスを増やしてほしい。学力層によって選択肢の幅に差があり、不公平と感じる。</p> <p>地域に高校がなくなることは、地域の衰退につながる。地域にどのような高校を残すのか、地域の活性化を視野に規模論だけでなく柔軟に検討を進めてほしい。</p>

検討項目		ご意見
基準	配置	進学希望と高校選択の理由について、成績が上がればほぼみんな都市部の進学校を目指す。しかし、地元の高校の存続に向けた地元校への進学希望数が話題になる。地元の高校存続のために定員割れを防ぎたいのなら、我が子を行かせるのか。
		高校選択の際に「自宅からの距離や時間などの通学条件」を重視している生徒・保護者が多い。現在、公共交通機関を利用して通勤しているが、通学時間については乗車時間1時間程度以内が妥当ではないかと感じる。(同趣旨他1件)
		再編の検討については、ある程度の規模の基準は必要と思われるが、職業系単独校の存在価値や通学のための地理的制約は考慮すべきである。
		「生徒が一定の通学時間内にある高校から選択できる」と「バランスよく配置するために小規模校から再編する」ことは矛盾しているのではないか。
	志願者数	入学志願者が3年連続定員を満たさず今後も増加の見込みがない場合、再編整備の対象となるとされていても、3年間のうち、1年でも定員を満たせば、再編統合の対象にしないという県もある。こうしたことも基準の例として書き込んでもらいたい。 再編の条件を満たしていても、年度によって変動が大きく、需要がないとは言えない。この先の需要という観点をもう少し見ていただけたらと思う。 以前新聞記事で読んだ、定員に満たない学校の生徒に再編に係るアンケートを実施するといった生徒を巻き込むようなことには反対。
対象校	高等支援学校は再編統合の対象となるのか。特別支援学校はこういった会議で議論されることがない。障がいを持つ児童が少しずつ増えている状況にあるので、検討してほしい。	
学科・コース	改編	学科・コースの検討では、バリエーションが少ない。富山県の柱である薬産業や、今後発展が望まれる観光、アニメ、デジタル技術などが選択肢として盛り込まれるべき。 富山県の施策として「観光」を打ち出していく中、次世代の観光を担う人材の育成が重要。「観光」を学習していくことが検討される可能性はあるか。 教育の目的は①人格の完成と②国家社会の形成者の育成、このことをまず基本に据えるべきと考える。②については富山県としての産業人材政策との関連で教育のあり方について検討すべきと考える。時代の課題としては(A)情報化(B)国際化(C)環境共生(D)少子高齢化の4つがある。産業人材政策では、生活支援人材の視点が欠けがち、(D)との関連では医療・介護・福祉(Well・beingの一丁目一番地!)人材養成について県内高等教育機関整備と関連づけながらしっかりと検討していくべきと考える。
		学科等の内容や普職の割合については、生徒のニーズを最優先に考えつつ、社会的ニーズも考慮していくことが大切。(同趣旨他3件)
	配置	私立高校のほとんどが普通科であり、職業系専門学科で学科・コースの特色を打ち出すのは県立高校ならではと思われる。 普通科と専門学科を持つ高校は、(アンケートにある)通学条件や学科・コース選択の多様性など「高校生ファースト」の視点でも、あり方の一つであると思う。 商業科は4地区に最低1つは設置されているが、今後の中卒予定者数の急減を踏まえると、商業科が存在しない地区が発生することはやむを得ないのではないか。
様々なタイプな	国際バカ	国際バカロレアは世界中の大学に進学する際に使える入学資格を得ることが眼目である。そうした進路が可能な生徒は、保護者の資金力・教育力も高いことが想定される。既に恵まれた生徒を抽出して、その教育環境を莫大な公費を投下してさらに良いものにすることが公教育の正しい姿であるとは到底思えない。
	高大	県立大学の附属高校をつくることも視野に入れ考えることはできないか。県外からの生徒募集もできるのではないか。

検討項目		ご意見
その他	オンライン	小規模校にオンラインでの授業を行っていけないか。
		「ICTを活用したオンライン授業」が提案されているが、クラス全体の表情を見たり、机間巡視をして手の進み具合を見たりして、対面で反応を受け止めながら授業は進められるべき。
	運営	再編するのではなく、学校間の交流や合同のクラブ活動などをリンクさせる方法もある。これだけでなくはならないといった方向はないと思う。
	予算	富山県はもっと教育費の予算を拡充すべき。教員の確保や処遇改善に力をいれるべき。
	欠員	高校の欠員が、「魅力がない」として高校側だけの責任とされる。いじめ・不登校が増える中、小中段階の育ち・学びの中で全日制に進むことを諦め、広域通信制などに大きく流れているのではないか。
	進県学外	一定数の子どもが石川県の高校に進学している現状がある。これまでの再編により南砺市の子ども選択肢が少なくなっていることや高校の魅力が薄らいでいることなどにより、県外進学といった選択肢が生まれるのではないかと思っている。
	公私	県立高校だからこそできることを考えるときには、私立との役割分担を考えていくことも必要。私立にしかできないこともある。
		(募集定員の基準となる) 公私比率を変えることはできないのか。
		生徒も保護者も県立優先の考えが薄れている。きっかけがどうか分からないが、S特進、特進等、私立も頑張ることができる、国の補助等で県立と私立の経済的負担の差が小さくなったという考えが浸透しているように思う。
		進路決定の時期が近づくと、ようやく真剣に考えられるようになり、高校へ進学して学習のやり直しがしたいと希望する生徒が出てくる。しかし、県立高校ではなかなか対応できず、私立高校を選ぶ生徒が多いのではないか。
		県立は減っているが、私立は通信も含め増えている。
	交通	生徒の通学に不便がないよう、交通機関の便を良くしてもらいたい。
		学校数が減った際、スクールバスといった通学手段を増やすなど、きめ細かい対応をしてもらいたい。
	発言	本日のフォーラムでは教育長だけが答弁、コメントされていたが、検討会議委員からも発言してもらいたかった。
	少人数	学級規模は小さくしてほしい。40人×6学級の240人より、30人×8学級の240人の学校の方が行き届いた教育ができる。(同趣旨他4件)
	選抜	入試制度で出願後に出願校の変更(他県の例)はできないか。
	魅力	南砺平高校では、自主制作の映画公開などをしており、こうした生徒たちの活動や小さな学校でも特色ある活動を行っていることなどを広く知ってもらえるといいのではないか。
		郡部の高校の定員割れや定員ギリギリの出願数について、ハイスクールチェックなどマスコミとのコラボも必要ではないか。都市部への憧れがある。